

クラブハウスはシャトー

松山 久秋

現役の時に駐在したパリに行き、2週間滞在して、近郊のゴルフ場7カ所でラウンドしました。駐在中に行ったことのあるゴルフ場は懐かしかったものの、相当昔なので思い出せないことも多かった。初めて行ったコースは、それぞれ特徴があってエンジョイできました。ゴルフ以外ではパリサンジェルマンのホーム(パルクデプランス)にサッカーの試合を見に行っただけで、ほとんどゴルフ漬けの毎日でした。

パリの近郊(イルドフランス)には約70カ所のゴルフ場がありますが、日本のゴルフ場と大きく違う点があります。そのいくつかをご紹介します。

まず、ラフは自然のままに伸ばし放題のところが多いこと。全英オープンのテレビ中継で膝丈まであるラフが映りますが、あんな感じですよ。ですから、ボールがラフに入ると8割方見つかりません。一面に紫の花をつけたヒースが生い茂っているラフもあって、ボールが見つかってもし出せません。(写真参照)もっとも、ここ20年程の傾向は、日本やアメリカのラフに当たるセミラフを広げて、元々の、自然そのままのラフを狭めているようです。また、比較的新しいゴルフ場では、自然のままのラフはほとんど無いところもあります。

パリ近郊には大きな森がいくつもあって、パリは森に囲まれていると言っても過言ではありません。多くのゴルフ場は、それらの森の中や周辺にあります。フォンテーヌブロー、ランブイエ、シャンティイ等の森の中には素晴らしいゴルフ場があります。クラブハウスは昔のシャトーや農園主の館

を改装して使っているところが多いです。シャトーもゴルフ場を取り囲む石壁も何世紀も前の物ですから、修復し、改装して使い続けることは大変なことだろうと思います。

パリ近郊のゴルフ場ではエクスクルーシブな会員制の所は少なく、ほとんどのゴルフ場はパブリックです。パブリックですが年会費を払えばプレイする度の料金は一切掛からない仕組みになっています。年会費はゴルフ場によりますが40万円程。頻りにプレイする人にはお得です。もちろん、プレイする度に料金を払うこともできます。こちらは平日で8千円程ですので、日本のゴルフ場と変わりません。ラウンドは18ホール・スルーで手引きカート(シャリオ)で回るのが主流です。電動の二人乗りバギー(ボアチュレット)もありますが、使う人は少ないです。手引きカートにモーターと無線が付いていて、プレイヤーの後をアヒルのようについてくるタイプもあります。これは便利だし、2メートル程離れてついて来るところがかわいいです。(写真参照)

プレイ後にレストランに行く人は少ないですが、一般的にレストランは充実しています。さすがフランス。ただし、レストランのウェイターは一人か、二人しかいないので、待たされるのは覚悟しなければなりません。ラウンドの後、テラスでコースを眺めながらゆっくりと食事するのもいいものです。

上記の他にも、違いはまだあります。以下箇条書きにしてみます。

1. 距離はメートル表示。ただし、90メートル(約100ヤード)、135メートル(約150ヤード)のところに目印があるコー

スが多い。

- レギュラー・ティーは黄色、バックティーは白。
- 靴は駐車場で履き替える。更衣室とシャワーがあるゴルフ場は多いが、使う人はほとんどいない。(アメリカのパブリック・コースでは、まずシャワーも更衣室もない。)
- スターターはいないので、料金を払ってスタートホールに行き、もし他にプレイヤーがいたら、お互いにスタート時間を言って、順にスタートする。
- 落ち葉の季節には落ち葉の片付けが間に合わず、フェアウェイでもボールが見つからないことがある。その場合はローカル・ルールの落ち葉ルール(無罰打)を適用する。(アメリカでも良くあるルール)

日本とはまた違うゴルフですが、フランスのゴルフも一興かと思います。



(フォンテーヌブロー・ゴルフ場のラフ)



(無線で後をついて来るカート、Golf National で)